

研究実施状況報告書

平成31年2月19日

長崎県立大学長 様

研究責任者 所 属 長崎県立大学看護栄養学部看護学科
職 名 准教授
氏 名 山谷麻由美



受付番号 326	承認番号 314
I 課 題 住民組織の育成に向けた地域診断ツール活用に関する研究（松浦市）～継続的な高齢者サロンの展開を目指す住民・行政・研究機関の協働モデル～	
II 研究期間及び調査期間 研究期間 平成29年7月31日 ～ 平成30年3月31日 調査期間 平成29年11月1日 ～ 平成31年2月28日	
III 研究の実施状況（該当項目にチェックしてください） <input checked="" type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究が終了した（公表方法：国際学会発表・論文投稿・ガイド本作成） <input type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究を実施した <input type="checkbox"/> 研究計画を変更して研究を実施した 変更審査申請書提出（ 済 ・ 未 ） 変更内容： 変更理由：	
IV 今後の研究の概要（研究が継続の場合）	
V 研究結果の概要（研究が終了の場合） 1. 高齢者サロン展開と報告等活動の実態・影響の調査 地域診断を起点とした高齢者サロンの展開を実施した松浦市保健師からの聞き取りやこれまでの活動の経緯をCBPR（Community-Based Participatory Research）の方法論を用いて整理し、保健師による地域づくりのGood Practiceとして示すための論文を作成し平成30年度中に日本公衆衛生学会誌に投稿予定である。また、Korea UniversityにおけるThe 12th Korea University Nursing Research Institute International Nursing Conference（10月開催）「Chronic Illness Management：Focused on Innovation, Collaboration & Diversity」で、JAGESプロジェクトの紹介や地域診断を起点とした高齢者サロンの展開を「Novel Long Term Care Prevention Strategy in Japan～Resident-Centered Community Building Based on Community Diagnosis～」と題し、Keynote	

Speakerとして発表した。

2. 地域診断～高齢者サロン～その後の活動のプロセスと影響の整理・評価・ガイド執筆

「地域保健活動における地域づくり」の概念分析を行い平成31年1月に日本地域看護学会誌に投稿した。また、概念分析結果の属性部分を中心に、松浦市の保健師がどのようなことを配慮し工夫したのかなど具体的な例を示し、保健師や保健師を目指す大学院生が活用可能なミニガイドを今年度末までに作成する。

VI その他報告すべき事項

なし

※V研究結果の概要については別紙での提出も可

VII ヒトゲノム・遺伝子解析研究の追加報告

1 提供された試料等の数

なし

2 試料等保管の方法

なし

3 外部の期間への試料等または遺伝情報の提供数

なし

4 ヒトゲノム・遺伝子解析研究が実施された試料等の数

なし

5 試料等の提供が行われる場合、匿名化を行った試料等の数

なし

6 遺伝カウンセリングの実施状況

なし

7 その他

なし